平成25年7月豪雨におけるダムの洪水調節効果について

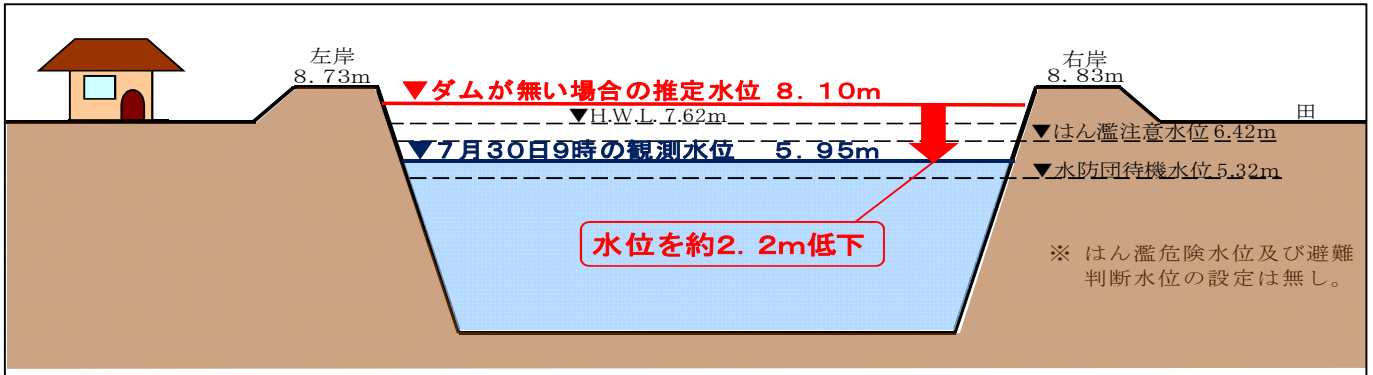
三瓶ダムの洪水調節効果（平成25年7月30日）　～三瓶川の水位を約２．２m低下～

○7月30日の前線豪雨により、島根県の三瓶川では降り始め（7月30日5時）からの7月30日9時までに**流域平均総雨量約190mm（時間100mmの雨量）を観測**し、三瓶ダムへの最大流入量は約187m3/sを記録しました。

○今回の防災操作により、三瓶ダムでは**最大約187m3/s の流入**に対して、**下流河川への流量を最大で約170m3/sをカット**しました。

○この結果、ダム下流大田市中心部の長久地点（大田市長久町付近）では、**水位を約2.2m低下させることができ、計画高水（H.W.L）以下で安全に洪水を流すことができた**ものと推定されます。

※計画高水位（H.W.L）：この水位を超えると、堤防の決壊等、重大な災害が発生する可能性が高くなる



三瓶川の水位の状況（長久水位局付近）

平成25年7月30日 9時頃
三瓶川神田橋付近の状況

ダム放流調節で水位低減

氾濫の危険抑制

大田市の三瓶川

30日午前の短時間に100ミリ超の雨が降った島根県大田市を流れる三瓶川が、上流の三瓶ダムの放流調節により水位を2メートル超も低減させていたことが31日、島根県の調査で分かった。ダムの調節がなければ氾濫注意水位を大きく超えていたとみられ、県河川開発室は「ダムの調節機能が働いた。ダムがなければ、危険な状態になった可能性があ

三瓶川（神田橋）

30日午前9時の三瓶川の様子。ダムがなければ水位はもっと高かったと推定される＝島根県大田市の神田橋付近（県提供）

調査によると、ダム上流域では30日午前5～9時に190ミリの雨が降ったとみられる。このため、ダムへの流入量は降雨前の毎秒10トンから一気に最大同186・8トンと急増。ダムでは、最大同170・4トンの水をためダムから三瓶川への放流量を最大同32・7トンに抑えたという。

この結果、川の下流で市中心部にある長久水位局付近では午前9時現在、水位が5・95メートルと氾濫注意水位の6・42メートルより低くなった。

ダムの調節がなければ水位は8・10メートルと氾濫注意水位を大きく超え、堤の高さ8・8メートル前後までわずかという危険な状態になった可能性があるという。

［出典：産経新聞　平成25年8月1日（山陰）］